

第 14 回市民参加懇談会コアメンバー会議における 次回開催についての議論の論点整理

次回のテーマ・進行について

< 基本的考え方 >

- ・ 開催テーマや開催規模などは、その都度、開催地域の方々の意見も聞くことにより、設定していくべきである。
- ・ 地域の団体・グループ等との共催については、地域の条件・状況に応じて、その都度決めていく。仮に市民参加懇談会が主催であっても、企画の段階から地元の方々の意見を取り入れていく。
- ・ 構成は 2 部構成とし、第 1 部は市民から意見を引き出すきっかけをつくるための問題提起の場として、パネルディスカッションを行うことが一つの有効な手法と考える。
- ・ 懇談の場は「広聴」を旨とし、原子力政策に関しての市民の意見を聞く。それを政策策定のプロセスに反映することを考慮し、懇談の場は的確な議論の展開が必要であり、パネリストは明確な問題意識、明確な意見を持つ人が望ましい。

< 次回の開催に向けてのご意見 >

- ・ 最初にコアメンバーが名前と立場だけでなく、一言ずつ今日はこんな話を聞きたいというように軽く意見を言ったほうが良いのではないか。
- ・ 消費地で開催する場合には立地地域から、立地地域で開催する場合には消費地からご参加いただき、お互い違う地域からの意見がそれぞれ分かるような仕組みが必要ではないか。
- ・ コアメンバーと会場とのやり取りが聞きたかったという意見もある。
- ・ コアメンバーからコーディネーターに、会場の方にこの件について聞きたいという発言をするのも良いか。

- ・ 議論が散漫にならないように、本の目次を作るような感じで大テーマがあって小見出しの整理をもう少しきちんとして、会場に方も理解しやすかっただろうと思う。
- ・ 重要な問題についての議論のやりとりに時間をかけるのは良いと思う。
- ・ ご意見を伺う人数については、基本的には内容が充実していれば制限をしても良いが、市民参加という色合いをどう出すかを含めて議論の余地はあるのではないか。

< 其他のご意見 >

- ・ 特化した問題について、小規模で多数回開催するののも一つの展開ではないか。
- ・ テーマを1年間決めて開催するののも一案ではないか。
- ・ 「inさいたま」でいえば、事前アンケートをもう少し効果的に使ったほうが良かった。

配置について

< 基本的考え方 >

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 壇上から話しかけるのではなく、同じフロアで、同じ目線で、同じテーブルを囲みあうようにそれぞれが自分の言葉で意見を交換し合う。 |
|--|

< 次回の開催に向けてのご意見 >

- ・ コアメンバーが壇上にいるということで第三の目というニュートラルな部分も出てくるので良いという意見もある。
- ・ コアメンバーがパネリストとはっきりと区別できる位置に並ぶほうが良いのではないか。
- ・ コアメンバーとしては、会場だけでなく、パネリストに対しても向きたいという気持ちもある。
- ・ コアメンバーの席として、フロアの皆さんの横にテーブルを置くのも一案。

< 其他のご意見 >

- ・ 1つのテーブルに参加者10人程度のテーブルを十数個用意し、第1部でそれぞれ議論して集約し、第2部で代表が報告するような「中華料理スタイル」は、時間の無駄がないのではないか。

配布資料について

< 次回の開催に向けてのご意見 >

- ・ 事実関係といった基本的な事柄についてA4で1枚程度にまとめて配るほうが良いのではないか。
- ・ 一般の方が普通のレベルで何か言う材料が欲しい。

関係者（当事者）について

< 次回の開催に向けてのご意見 >

- ・ テーマによっては、関係者は不要な場合もあるのではないか。
- ・ 関係者の説明が長すぎないようにすべきではないか。
- ・ 参加者からの質問に直接関係者が答えるのではなく、パネリストやコアメンバーが意見を聞くワンクッションがあった方が良いのではないか。

その他共催者と検討すべき事項

- ・ 女性の参加が少ないことに対しては、事前対策としてもう少し打つ手があるのではないか。
- ・ 平日の昼間だと背広姿の方の参加が多くなることもあり、土日開催が良いのではないか。
- ・ 課題を抱えている地域で開催し、その問題点を詰めていく方法のほかに、人口5万人以下くらいの中小都市、特に直接関係ない地域で開催して、たくさんの人に聞いていただき、啓蒙活動のようなものに力を入れ、そこでいろいろなことを知っていただくと位置づける方法もある。